

# 東京のまちづくり活動トピックス

1月27日に、オンライン(Zoom)で「まちづくり連続講座 第13講 コロナ禍の暮らしを知る」シリーズの2回目を開催しました。今回の講座では、コロナ禍での「フードバンク」や「子ども食堂」での活動を通して見えてきた地域の人たちの暮らしの変化や、支援活動の現状と課題について学び、私たちや生協でできることを考えあいました。

## コロナ禍の暮らしを知る その2 ～フードバンク・子ども食堂の現場から～



共催：東京都生活協同組合連合会 地域生活研究所  
形式：Zoomによるオンライン開催  
参加人数：58名(当日41名・後日視聴17名・講師除く)  
参加生協：7生協

### 地域のインフラとして、共生の地域づくり

フードバンクTAMAは、八王子市・日野市・立川市・多摩市を中心に「ひとり親家庭」「子ども食堂」「無料塾」に食料支援活動を行ってきました。2018年10月から「フードバンク」だけでなく「フードパントリー」を日野市社会福祉協議会・社会福祉法人5カ所と共に地域のインフラとしてはじめました。

#### コロナ禍の地域の現状

「ひとり親家庭」はさらに苦しくなり、20代、30代は再就職先が見つからず、食べる事すら困難な状況になっている人が増えている。思っている以上に貧困だけでなく、教育、食など違う形の格差も広がっている。

#### 支援する現場の現状

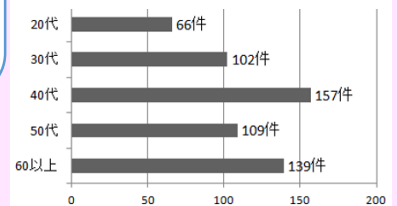
コロナ禍前は、ひと月10箱程度の食材を関連施設に届けていたが、現在は支援先がこれまでの施設に加えて「大学」「子ども家庭支援センター」「フード・パントリー」「子ども食堂」と増えたこともあり、100箱に増加。その量8～9トン。1家庭1回としていたが現在は2回以上になっている。食料はいくらあっても足りない状況。若者も深刻な状況で、12月から全面的に支援することにした。立ち直れるまで支援を続ける。



芝田 晴一郎さん  
(フードバンクTAMA理事・事務局長)

#### 年代別ごとの支援件数(2020.4～9)

##### コロナ禍で増えた20代、30代



食は基本。特に子ども達には美味しいものをお腹いっぱい食べてもらいたい。自助・共助・公助といわれても、自助は難しいのが現実。せめて手が届く所では、ともに前を向いていけるような共生の地域を作っていかなければいけない。

### 地域で楽しく 子どもの笑顔が好きだから

北区の「子ども食堂ネットワーク」には29の子ども食堂が登録されています。2017年10月からスタートした「子ども食堂としま虹」もその一つで、東京ほくと医療生協の豊島虹のセンターで活動しています。月2回の開催で、大人と子どもを合わせて毎回70名前後の人に利用してもらっていたところで、コロナ禍となり、2020年2月に「子ども食堂」を中断せざるを得ない状況になりました。



安藤 和美さん  
(子ども食堂としま虹代表)

コロナ禍で医療も大変になっていくと知って・・・

王子生協病院で働く医療従事者にカレー180食をお届け。

#### 2020年6月再開！

こんな時こそ、食で地域とつながろう！  
テイクアウトで子どもに限定したお弁当70食を作って働く親を応援しよう！

#### 管理栄養士もいます

成長期の子どもの栄養を考えた献立と彩りに考慮したお弁当や手作りおやつ。

お弁当で使った食材の意外と知られていない豆知識を紹介したメモも好評。

お弁当に添えています

#### 嬉しい子ども達の笑顔

「ピーマン食べられたよ。」  
「おいしかった！」  
「ポテトサラダの作り方教えて！」

お肉屋さん 八百屋さん パルスシステム東京さん 生協の組合員さん 保護者の方々

たくさんの支援に感謝

頼もしい12名のボランティアは、子どもたちやお母さんの笑顔を活かして楽しく和気あいあいと活動している。みんな一緒に食べることができる賑やかな「子ども食堂」に早く戻れることを願って、これからも活動を続けていく。

### 「生活困窮者への支援活動に関するアンケート」から見えること

報告：遠山孝治 (東京都生協連 消費者行政連絡会担当)

東京都生協連消費者行政連絡会では、会員生協に呼びかけて「生活困窮者への支援活動に関するアンケート」調査を行いました。アンケート結果から、回答いただいた生協が「生活困窮者への支援に係る活動」に積極的に取り組まれているもの、まだ活動の無い空白の地域があることが明らかになりました。今後は、生協間でこの取り組みについての連携や情報共有をさらに進め、生協が一層地域の中に浸透していくことや、空白の地域を減らしていくことが必要ではないかと問題提起を行いました。

### グループトーク

テーマ『私が、私たちが、生協が今できることはなにか』

地域から得た情報や課題を共有したり、つながっていくことも大切ですね。

生協ごとに助成金の仕組みが違うのね。お互い知らなかったね。

情報共有をすすめて生協の助成制度を地域や必要とする方々につなげたい！

生協間の交流もできました。

### 【アンケートの感想より】

- 改めて貧困家庭の現状を知らされ、紹介された取り組みの重要性を考えさせられました。自分ができるところを見つけないといけないと思います。
- お二人のお話しがリアルな話題なので身近に感じられました。グループで他生協の方との情報交換ができて良かったです。
- 芝田さんの発言で生協の野菜を配布したときの反応が凄いとのこと。新鮮な野菜を求めていると感じました。